

## 2024年3月期 第3四半期 決算説明会 質疑応答

### 質問者①：

今回の通期業績予想下方修正について先程理由を説明いただいたが、そういった理由は恐らく2Qの決算発表時（11月）にも基調として見られたのではないかと。トップラインは少し足りないが、コストコントロールで利益は頑張っておきたい、というのが3ヶ月前のコミュニケーションだったと思うが、そこから3ヶ月経って今回の下方修正に至った要因は何か。

想定よりも売上が下がったからなのか、来年度以降に向けてコストは一定使っておきたいのか、3ヶ月前の判断と今回の下方修正に至ったところで、変わった点は何か。

### CFO 徳永

答えとしては両方ある。説明資料の中でもCareerの売上高の前年対比について説明したが、3Qは18.9%でまだまだ高い数字ではあるものの、伸び率が1Q、2Qと比べて弱くなっているというトップラインの理由が一つ。もう一つの理由は、来期に向けてしっかり増益を達成するため、1月～3月期にコストの適正化は当然行わなければいけないが、来期以降にマイナスのインパクトがあるよう削減までは経営としてやるべきではないということで、コスト削減を一定程度コントロールした結果として、今回の下方修正に至った。

### CEO 和田

少し加えさせていただくと、マーケット感は当初の我々の計画よりも少し弱含みではあるものの、人材全体への需要そのものが大きく落ち込んでいるというより、ある意味「一服感」が来ているとの認識をしている。

今後の状況をしっかり見据えて、マーケット好転のタイミングでしっかりと人材供給できる体制を作っていくことが重要と捉えている。

### 質問者①：

Career 中心にご説明いただいたが、調整後 EBITDA では Staffing も Career と同じぐらいの額を下方修正している。その背景は。

### CEO 和田

Staffing は現状大手クライアントからの発注に一定の減少が見られるものの、中堅、中小企業からは引き続き旺盛な需要をいただいている。ここにしっかりシフトして人材供給体制を維持すること、人材獲得の競争力を維持することが非常に重要と認識している。

### 質問者②：

新しい会社計画についてお伺いしたい。今回セグメント別で拝見すると、概ねほとんどのセグメントが調整後 EBITDA を下方修正している。Career の下方修正は市況感を考慮するとある程度致し方ない部分はあると思うが、例えば Technology でも利益が下がっていたり、あるいは Staffing も数字下がってきているという

ころについては、期初の計画にややストレッチした部分があったのではないかと見えてしまうが、いかがか。  
また、来年度に向けてご計画を練られていると思うが、差し支えない範囲で来年度をどのように考えていくのか、派遣や Technology のような安定的なビジネスについてはそんなストレッチしないで見通しておられるのか、あるいは景気回復する前提で前向きな業績予想を作りたいと考えているのかなど、来年度に向けた考え方もあわせて教えていただきたい。

### **CFO 徳永**

最初のご質問について、Staffing と Career に関しては先程説明した通りで、Technology について追加で回答させていただきます。

Technology のトップラインは堅調と理解している。一方で、想定以上に新卒中途の採用が進んでおり、実際に稼働するまでの間は弊社の場合 2~3 ヶ月程度かかっている。結果、原価率が上がってしまい、Technology も若干減益になった。ただ、資料でも説明した通り、毎四半期ごとに順調に稼働させており来期以降大きな問題はないと考えている。

2 つ目にご質問いただいた来期の利益計画については、まさにこの 2 月、3 月に予算作成をしている段階。日本の人材マーケットのタイトさ自体は短期的に大きく変わるものではないと理解している一方で、和田から説明があった通り、少し企業様によって採用需要が上がったり下がったりしているところもあるため、じっくり足元の状況を分析しながら、来年度の利益計画を作っていきたい。

### **質問者② :**

今回通期業績予想は変えた一方で、通期配当予想は変えていない。

今中計では、かなり詳細に株主還元のポリシーを出している。来年度は恐らく増益計画で組まれると思うが、その中で配当性向、あるいは今年度の数字からなるべく減配はしたくない、といった形で株主還元を考えているか。

### **CFO 徳永**

今回、見直し修正の資料にも記載しているが、トップラインと粗利は堅調。今年度、特に人的投資、Career においてコンサルタントをしっかりと増強していくこと、Staffing、その他の事業においても今の社員の方に、日本全体のことかもしれないがしっかりと賃上げをしていこうということで、9 ページにある通り人件費が増えたことが短期的にはインパクトがあった。繰り返しになるがトップラインと粗利は非常に堅調であり、調整後 EPS の約 50% という配当方針というのは変えないで継続する。

### **質問者③ :**

Staffing の下方修正要因として、先程説明のあった中堅中小はしっかりしているものの、大手の発注の減少が見られるという部分について。何故そこが減っているのかに関して、もし何か思い当たるところ、例えば直接雇用化をして派遣需要が減っているのかとか、もしくは AI を活用した効率化によって大手に関しては人材需要が落ちてきているのかなど、何か更に分析があったら教えていただきたい。

## CEO 和田

詳細な分析をしている最中だが、感覚としては、大手は先行きの不透明感から人材活用を一旦ステイさせている印象。これは今お話のあった AI の活用なども含まれるのだろうが、現時点の減少は AI の活用が進んだためということではない。為替や米中経済といった様々な景気先行き不透明感から、一旦派遣活用を絞るということを年度末にかけてなされているのではないかと考えている。従って、年度が変わった時点で人材活用の方針等も新たに出てくると思っており、しっかりと注視していきたい。

## 質問者③：

特に正社員化をすごく進めているといった感じではないということか。

## CEO 和田

はい。正社員化の波はほぼ感じていない。

## 質問者③：

景気を含めた先行き懸念の影響が、大手には出て中小企業には出ていないのは、中小企業にも恐らく同じような懸念はありながらも、それ以上に中小企業における人手不足感が強いため、需要が落ちてない、という理解でよいか。

## CEO 和田

おっしゃる通り。中堅、中小企業様の人材採用活動がうまくいっていないということも、派遣活用の増大に繋がっているのではないかと。

## 質問者③：

Career の売上の伸びについて。修正計画から 3Q 実績を差し引くと 4Q は YoY15%増。中計上は、CAGR26%増という計画で、結構高い成長を見込んでいる。もともとこの 3 年において dodaX を中心に積極的に Career で投資をしていく考えがあったかと思うが、今後また市況がどう変わるのかということはあるものの、もし仮に中計の 26%増ほど伸ばせない状況になった場合、Career の投資に対する考え方が変わってくる可能性があるのかを教えてください。

## CEO 和田

Career の成長は今後も大きく見込めると認識をしている。今中計で掲げた CAGR26%強について、現在の数字を見ると一定クエスチョンが出ることはご指摘の通りだが、全体の方向性としても今後人材紹介マーケットは間違いなく成長していくし、転職回数は増えていくというのが大きな流れ。加えて、日本の人材需要は逼迫しているというのも事実で、この領域は成長マーケットとしてしっかり投資していきたいと考えている。

ただ、ご指摘の通り、適切な業績成長と適切な投資をしっかりと見据えながら適切な運営をしまっている、というのが我々の方針。

**質問者③：**

Careerに関して、先程社長からも一部厳選採用の動き等が見られるというようなお話があったかと思う。そうすると、例えば年収帯別で見て、ボリュームゾーンと、中高年収帯で分けた場合、厳選採用についてはハイクラス系は相対的に良いと見ていらっしゃるのか、イメージを教えてください。

**CEO 和田**

我々はボリュームゾーンを非常に強く持っている。年収帯で 400～600 万円のところが圧倒的に強い。今後の成長領域はその上の 600 万～1,000 万で、この水準は引き続き積極採用されるであろうと認識しており、マーケットからの我々への需要もある。ただ、両方の領域において厳選採用は現在の一つの流れであり、それが全体の一服感に繋がっているのではないかと認識をしている。加えて、ボリュームゾーンは 400～600 万のところが圧倒的に多いため、その影響が大きいことが、我々にとっても人材紹介マーケット全体においても間違いなところと認識している。

**CEO 和田**

改めまして、本日はお時間いただきましてありがとうございます。

今回通期業績予想の下方修正ということになり、我々としてもマーケットの変化にしっかりと適応していかなければいけない、その思いを改めて強く認識しておる次第です。ただ、このマーケットでは引き続き人材紹介を含めて我々は二桁以上の成長をさせており、マーケットの中において確固たるポジションを得ていきたいと考えています。我々がしっかりと対応することで、我々が目指す「はたらいて、笑おう。」の世界を真に広げていければと思っていますので、ぜひとも引き続き皆様のご支援をお願いしたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

以上